

なら 植防ニュース

平成 27 年度農薬展示圃部会の開催

3月11日に関係者23名を集め、農業研究開発センターで開催された。

新規登録された農薬等を県内の圃場で使用して、防除効果や薬害、普及上の問題点など適合性を評価するために展示圃の設置を計画している。

イネの箱施用剤では、QoI 剤耐性菌対応の殺菌剤と、ジアミド系殺虫剤の混合剤が検討される。九州地方や山口県では、QoI 剤耐性菌が増えて、いもち病が多発している。近畿地方では兵庫県や滋賀県で発生が確認されており、警戒が必要である。嵐などの QoI 剤を箱施用したにもかかわらずいもち病が多発した場合には病害虫防除所に連絡をされたい。

イネの除草剤では、薬剤の成分数を減らし環境負荷を軽減し、エコ栽培に使用しやすい剤を中心に16剤の展示圃が設置される。

地域によって雑草の種類が異なるので、発生状況によっては、追加防除が必要になる場合があるので注意する。

野菜ではチョウ目害虫を対象に防除効果が高いジアミド系殺虫剤やスピノシン系殺虫剤をなど5剤が設置される。果樹では、最近防除が難しいカキ炭疽病の展示圃が設置される。

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒 634-0813 橿原市四条町 8 8
奈良県農業研究開発センター内
TEL0744(22)8151
FAX0744(22)8152(専用)

目 次

◎平成27年度農薬展示圃部会	1
◎平成26年度農薬安全使用研修会	2
◎シホジウム生物農薬—この20年の歩みと今後の展望	3
◎登録失効になった農薬 (FAMIC の失効農薬情報より)	4

以下のように31剤の展示圃を設置する。

イネ(殺虫殺菌剤:3、除草剤:16)
麦(除草剤:1)
野菜(殺虫剤:5)
果樹(殺菌剤:1、展着剤:2)
茶(殺菌剤:1、殺虫剤:2)



平成26年度農薬安全使用研修会「世界及び国内における薬剤耐性菌の動向と今後の対策」

(次ページに講演内容の詳細)

農薬安全使用研修会「世界および国内における薬剤耐性菌の動向と今後の対策」

植物防疫協会 岡山 健夫

平成27年3月13日に約80名の参加者を集め、橿原市のリサイクル館において研修会が開催された。はじめに病害虫防除所の平山喜彦研究員から県内の薬剤耐性菌の発生状況と課題について報告があった。続いて、(独)農業環境技術研究所の石井英夫博士から標題について以下の講演が行われた。耐性菌の薬剤系統別発生リスクはホームページに公表されており、交差耐性の有無などを知ることができるので利用されたい (<http://www.taiseikin.jp>)。

最近問題の薬剤耐性菌には、イネいもち病菌の MBI-D 剤 (脱水酵素阻害型) 耐性菌 (例: ウイン) が全国 36 道府県で確認され、既に流通が止まっている。QoI 剤は、イネでは嵐やオリブライト、アミスターが普及しており、耐性菌が九州や中四国で発見されている。これらの薬剤は交差耐性があり、いもち病や紋枯病の発生動向に注意が必要である。QoI 剤は耐性発達リスクが高い薬剤であり、長期残効性薬剤は耐性菌の選択圧が高まる。アミスターやストロビーなどの QoI 剤は、野菜や果樹、茶でも広く使われ、トマト葉かび病やチャ輪斑病、ブドウべと病やイチゴ炭疽病で耐性菌の発生が報告されており、発生情報の共有と迅速な対応が重要である。

SDHI 剤 (例: カンタス、アフェット、ナリアの 1 成分) は、現在世界で最も注目される殺菌剤である。しかし、キュウリ褐斑病やうどんこ病、ナスすすかび病やトマト葉かび病で耐性菌が見つまっている。期待の大きい薬剤だけに、実態やリスクを

認識した上で使用することが大切である。

MBI-D 剤や QoI 剤耐性のいもち病菌対策のガイドラインとして、①年1回の使用に限定し、育苗箱処理では連年使用を避けて1~2年おきに作用機構の異なる薬剤と輪用する。②採取圃や周辺での使用を控え、耐性菌が検出された場合には使用を中止する等が挙げられた。また、感受性を確認した薬剤による種子消毒、健全種子の生産や種子更新が重要である。耐性菌は、病原菌量が多いほど発生しやすいので、伝染源となる被害わらやもみ殻を育苗施設周辺から排除して本田への持ち込みを防止する。

殺菌剤耐性菌研究会ではウリ科野菜を例に、QoI 剤や SDHI 剤の 1 作当たり使用回数制限を提唱している。薬効が疑われる時には関係機関に連絡し、分布が確認された場合は、使用を中止して効果が確認されるまでは使用しないとした。防除暦作成に際しては、耐性菌発生リスクの低い保護殺菌剤を主にした予防体系の構築も必要で、指導機関の意識向上が必須である。

農薬規制の進む EU 加盟国には 2014 年までに総合的有害生物管理 (IPM) を行動計画に記載することが義務付けられ、農薬の使用や影響を軽減することが求められている。耐性菌対策は、IPM の実現にとっても必要不可欠な課題である。耐性菌による被害を回避して薬効を持続させるためには、使用回数を適切に制限してなおかつ病原菌密度を下げるのが重要である。病害の多発を招かないような圃場や施設の環境改善、耐病性品種の利用など代替技術の開発と普及が急務である。

日植防主催シンポジウム 「生物農薬—この20年の歩みと今後の展望」

植物防疫協会 福井俊男

平成27年1月16日、500名の参加者を集め日本教育会館で開催された。日本植物防疫協会が生物農薬実用化連絡試験を始めて20年目にあたり、生物農薬の開発、普及の歩みを振り返り、今後の展望を探る機会になった。

○**生物農薬この20年（日本植物防疫協会 藤田俊一）** 試験担当者が試験に慣れ、薬剤効果が安定した生物農薬が増えている。平成26年までの登録農薬は、農薬種類50、商品数113と増えているが、出荷額ではこの10年間 20億円と横ばいが続いている。

○**病虫害防除における生物農薬の課題と展望（農研機構本部 仲川晃生）** 消費者の食の安全、安心に対する関心の高まりを背景にして、IPMの概念に基づく病虫害防除が求められており、その中で生物農薬は重要な要素である。しかし、「価格が高い、効果が不安定」というデメリットを克服しないといけない。

○**企業から見た生物農薬の展望①（アリストライフサイエンス 山中聡）** 生物農薬は化学農薬の代替えとして慣行防除体系に入れられる効果を目指したが、低い評価であった。生物農薬の使用場面は、薬剤抵抗性害虫で化学農薬では防除困難とか、化学農薬の登録がない場面に限られている。今後、生物農薬の効果を生かすための防除プログラムを構築する必要がある。①基幹防除、②補完防除、③臨機防除、④レスキュー防除に分類して、作物の状況に応じた生物農薬の使い方を提案した。

○**企業から見た生物農薬の展望②（石原産業株式会社 森光太郎）** 化学農薬と生物農薬の併用技術を目指してきた。バンカー法の開発、広食性天敵の利用、餌付きカブリダニシートなど、生物農薬の使用方法改善を図ってきた。

○**防除指導実践を通して見えてくる生物農薬の課題と展望①（奈良県病害虫防除所 国本佳範）** 生物農薬出荷額は、高知県などの特定の県では多いが、奈良県では施設園芸がある割に少ない。生物農薬は化学農薬に比べて使いづらい。しかし、薬剤抵抗性ナミハダニが増加しており、慣行防除が困難な生産者に絞り、かつ生物農薬を理解してもらい、導入している。農家に「これを使ったら得や！」と思わせないと生物農薬の普及は進まない。

○**防除指導実践を通して見えてくる生物農薬の課題と展望②（茨城県農業総合センター園芸研究所 富田恭範）** 環境保全型農業の推進の一つとして生物農薬を普及しているが進まない。茨城県で生物農薬が増えたのは、ピーマン産地でコナジラミ等害虫防除に導入した事例がある。生産部会の組織の強さ、栽培管理技術の平準化、普及と農薬メーカーと試験研究機関の支援体制がしっかりしている。

総合討論

行徳(熊本)：生物農薬は防除効果が安定し、格段に使いやすくなっている。

朝比奈(高知)：「長期栽培では天敵を導入しないと生産できない。もう、昔に戻れない。」と生産者は言う。

行徳(熊本)：市場規模は横ばいと言われるが、中身は大きく変わっており、生物農薬の利用は着実に進んでいる。

登録農薬失効情報(2014. 12. 1～2015. 2. 28)

農林水産消費安全技術センター農薬検査部の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名	失効日
殺虫剤				
4491	NAC水和剤	ホクコーデナボン水和剤50	北興化学	12/3
12732	マシン油乳剤	サマーマシン97	住友化学	1/31
14049	DMTP・NAC水和剤	スブラナック水和剤	クマイ化学	12/25
14842	PAP粉剤	ホクコーエルサン粉剤3DL	北興化学	12/2
15776	ブプロフェジン粒剤	アブロード粒剤	日本農薬	12/11
15968	ベルメトリン水和剤	ホクコーアディオオン水和剤	北興化学	2/21
15979	ベルメトリン・MEP乳剤	スミナイス乳剤	住友化学園芸	2/21
19476	テブフェンピラド水和剤	ヤシマピラニカ水和剤	協友アグリ	12/25
21010	オリフルア・トトリルア・ピーチフルア剤	コンフューザーN	信越化学	1/28
21626	インドキサカルブMP水和剤	風神フロアブル	丸和ハイト	1/25
21634	エトキサゾール・酸化フェンブタズ水和剤	ツインパックフロアブル	BASFジャパン	2/8
23040	インドキサカルブ粉剤	ガリソンエース粉剤DL	カネヨウ	2/8
殺虫殺菌剤				
17516	ブプロフェジン・フルトラニル粒剤	アブロードモンカット粒剤	日本農薬	12/10
20293	イミダクロプリド・カルプロバミド・チフルサミド・ダイヤモンド粒剤	ウィンアドマイヤーグレートム箱粒剤	ハイル	2/12
21012	エトフェンブロックス・アソキシストロピン・フェノキサニル粉剤	アミスターアチーブトレボン粉剤DL	日本農薬	2/22
21649	MEP・TPN粉剤	スミチオンダコニール粉剤DL	クマイ化学	12/25
殺菌剤				
5924	ストレプトマイシン水和剤	ホクコーマイシン水和剤	北興化学	12/13
10574	マンネブ水和剤	東北グリーンエムダイファー水和剤	北興化学	2/14
12798	チオファネートメチル粉剤	ホクコートツブジンM粉剤	北興化学	12/25
19470	トリフルミゾール乳剤	ヤシマトリフミン乳剤	協友アグリ	2/10
19543	プロベナゾール粒剤	サンケイオリゼメート1キログラム粒剤	サンケイ	12/27
20314	シプロジニル・フルジオキシニル水和剤	スイッチ顆粒水和剤	シグマインタ	2/25
21028	オキシロニック酸・プロクロラズ水和剤	バイエルスポルタックスターナSE	ハイル	12/14
21603	シメコナゾール水和剤	サンリットDF	三井化学アグロ	12/3
22308	銅水和剤	グリーンドクター	丸和ハイト	1/31
除草剤				
15909	トリフルラリン・プロメトリン乳剤	コワーク乳剤	ハイル	1/7
17876	テブチウロン・DCMU・DPA粒剤	JCHハービアウト粒剤	カーリット	12/24
18585	イマズスルフロンのジメタメトリン・ダイヤモンド・プレチラクロール粒剤	明治ハヤテ粒剤	Meiji Seika	12/24
18596	テニルクロール・ベンスルフロンのメチル水和剤	ホクコークサメツツLフロアブル	北興化学	1/31
19504	アジメスルフロンのピリミノパックメチル・ベンスルフロンのメチル・メフェナセット粒剤	プロスパーA1キログラム粒剤36	クマイ化学	2/8
20323	DCMU・DPA・MCP P粒剤	クサブランカーMS粒剤	保土谷アグロテック	2/8
20327	DCMU・DPA・MCP P粒剤	パラN粒剤	伊吹正	2/8
20328	DCMU・DPA・MCP P粒剤	クサダウN粒剤	北興産業	12/14
21601	イマズスルフロンのカフェンストロール・ベンゾピシクロン粒剤	協友イッテツジャンボ	協友アグリ	12/27
21611	グリホサートイソプロピルアミン塩液剤	三共クサトリキング	ホクサ	1/25
21622	オキサジクロメホン・クロメプロップ・プロモブチド粒剤	黒帯1キログラム粒剤	日本農薬	2/8
21637	オキサジクロメホン・クロメプロップ・プロモブチド・ベンスルフロンのメチル粒剤	ホクコーホームランキング1キログラム粒剤75	北興化学	2/8
21639	オキサジクロメホン・クロメプロップ・プロモブチド・ベンスルフロンのメチル粒剤	ホクコーホームランキング1キログラム粒剤51	北興化学	2/8